

放課後等デイサービス 事業所における自己評価総括表(公表)

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービスいろは第二単位		
○保護者評価実施期間	令和6年 11月 1日 ~ 令和6年 11月 16日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20人	(回答者数) 20人
○従業者評価実施期間	令和6年 11月 1日 ~ 令和6年 11月 13日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6人	(回答者数) 6人
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年 11月 25日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	●活動内容の充実 公共交通機関を使用しない外出、調理実習、e-sports、福祉スポーツ、創作活動(個別・集団)、マナー講座等、毎日様々な活動を実施している。	保護者様のニーズに基づき、他者との関わりを深められる活動や、ルールやマナーの理解、身辺自立の習得を目指した活動を実施している。また、同じ内容であっても、ルールやメンバー、方法に変化を持たせることで、活動が固定化されないよう工夫している。	より多くの保護者様のニーズに合わせた活動をチームで立案し、提供していく。また、活動中のお子様の様子を細かく確認し、職員間で共有することで、次回の活動の難易度設定等に活かしていく。
2	●環境設備の充実 活動スペースが広く、静と動のエリア分けが可能である為、体を大きく動かす活動や、学習等の座って行う活動を同時に実施できる。また、個別対応が可能な別室もあり、必要に応じて使用できる環境を整えている。	机や椅子を活用し、私生活や学校生活に近い環境設定で支援している。お子様が机や椅子を安全に使用できるよう、適切な扱い方を伝える等の取り組みをしている。また、調理器具や掃除道具等が充実しており、お子様が私生活で使用できるような、実践的な取り組みをしている。	環境設備について、お子様の将来を考え、職員間でアイデアを出し合っていく。また、お子様の様子をもとに、現環境設備の評価を行い、必要に応じて見直しを行っていく。
3	●幅広い年齢層の他児との関わり 小学校一年生から高校三年生までのお子様と一緒に活動している。	幅広い年齢層の他児と関わることで、多くの相手の気持ちを考え、相手を思いやる気持ちを育む取り組みを行っている。また、年上のお子様や職員には敬語を用いる活動等を通じて、上下関係が学べるようにしている。加えて、同一法人内の他事業所のお子様とも交流する機会を提供している。	内容に応じて、グループを年齢層で分けて実施している活動もある為、活動内容の見直しやグループ分けの調整等を行い、環境を整えていく。また、余暇活動では年齢層の近いお子様同士の関わりが多い為、職員が積極的に介入し、幅広い年齢層との関わりが深められるようにしていく。
4	●研修の充実 事例検討会や感覚統合勉強会等、様々な研修を実施している。	感覚統合の勉強会を通じて、感覚統合を取り入れた活動について職員間で検討したり、日々の活動のねらいに設定する等の工夫を行っている。また、研修委員を中心に、様々な内容の研修を実施している。研修実施日を複数設けることで、数多くの職員が研修に参加できるような体制を整えている。加えて、社外研修に関しても、積極的に参加できる環境を整えている。	感覚統合の勉強会だけでなく、様々な研修を通じて学びを深め、職員間で共有しながら活動に反映させていく。また、現在実施している社内研修の内容を見直し、職員や保護者様、お子様のニーズに合わせた研修の実施を行い、支援の質の向上を図っていく。
	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	●一部の活動に対するお子様の満足度	マナー講座を通じて、社会生活におけるルールやマナーの把握、生活リズムの見直し等を行っている。しかし、受容的な内容が多い為、活動に対するお子様の満足度が低い様子が見られる。	マナー講座の内容を見直し、受容的に聞いて学ぶ内容以外にも、能動的にお子様に参加し、楽しく学べるような工夫を行っていく。また、マナー講座だけではなく、様々な活動について、お子様の反応や様子を振り返り、満足していただけるように改善をしていく。
2	●地域住民との活動	個人情報の兼ね合いがあり、交流機会が少なく、活動時間の兼ね合いで、平日に公共施設を利用することが難しい。	今まで同様、公共施設への外出機会を提供し、地域の方と交流を行っていく。また、取り組んでいる福祉スポーツ等を通じて、地域の団体等との交流を図っていく。
3	●全職員での振り返り等の実施	日々の支援の振り返りを翌日の朝礼で行っている為、情報共有に漏れや遅れが起きてしまう可能性がある。	振り返り内容を連絡ノートに記載したり、メモに残すことで、情報共有の漏れを防いでいく。また、緊急性に応じて、当日に振り返りを行うことで、情報共有の遅れを防いでいく。